

**子どもたちの登校を見守る
交通安全 街頭立哨**

5月11日に菅根市長や尾花沢警察署長らが街頭に立ち、子どもたちの登校を見守りました。
この日から、新型コロナウイルスと感染症対策のため休校していた市内の小中学校が再開となり、子どもたちは元気に通学。新1年生も登校班に加わり、黄色いカバールのランドセルを背負ってお兄さんお姉さんについて行く初々しい姿が見かけられ、通学路は爽やかな挨拶で賑わいました。



**宝栄牧場入牧式
「モ〜待ちきれない!」**

快晴の5月28日、玉野地区の宝栄牧場で入牧式が行われました。主に肉用牛80頭が入牧。検査を終えた牛たちは、ゲートが解放されると「モ〜待ちきれない!」とばかりに草原へ飛び出していきました。宝栄牧場は標高420〜620mの高地にあり、5月〜10月の平均気温が16度と牛には過ごしやすい気候です。10月下旬の下牧式まで、牛たちは約88haの広大な牧草地で伸び伸びと過ごします。

おばなざわ日記 *Obanazawa* **Diary**

あなたのまわりの、身近な話題や出来事などをどしどしお寄せください!
☎ 総合政策課 ☎ 22-1111

5月31日オンライン全国移住フェアに出展しました!

定住応援課では毎年、首都圏等で行われる移住フェアに出展し、尾花沢市の魅力をPRしています。今年は新型コロナウイルスの影響で移住フェアが開催されない状況のため、今回初めてオンラインの移住フェアに出展しました。今後も尾花沢市に興味を持ってもらえるような取り組みを続けていきます。



**玉野小学校で田植え体験
お米ができる過程を学ぼう**

食農教育活動の一環で毎年行われている玉野小の田植え体験が今年も行われ、5年生12人が実習田にヒメノモチの苗を植えました。
JAみちのく村山尾花沢青年部の皆さんの指導の下、昔ながらの手植えを体験。木枠を転がし、苗を植える場所の印をつける作業では、4人一組で泥の中を掛け声をかけながら力を合わせて押していました。秋には稲刈りや餅つき体験も行う予定です。



**地元で生まれた「幻の米」
宮沢小学校で田植え体験**

6月1日、宮沢小5・6年生8人が、小学校前県道沿いの田んぼで田植えを体験しました。
植えた苗は昭和35年に尾花沢で誕生した「ごわのはな」。栽培が難しいなどの理由で作付けが減少し「幻の米」ともいわれていますが、宮沢では原種保存や米の活用などに積極的に取り組んでいます。
子どもたちは農事組合法人「魁」の皆さんの指導を受けながら、初めての田植えを楽しんでいました。

**常盤小学校 ワラビ採取
大収穫で大満足**

5月29日、常盤小の1〜6年生が鶴子地区の本間仁七さんのワラビ園でワラビの採取体験を行いました。ワラビ採取は鶴子小と常盤小の統合に伴い、両校の児童たちの交流を目的に昨年からはまったイベントです。
子どもたちは慣れた様子でワラビを次々収穫し、袋に入りきららないほど収穫した子どもいました。晴天の中、広大な自然を思う存分満喫し、大満足の様子でした。



**里山の恵みをお届け!
ほその村「ふるさと定期便」**

細野地区では、地区民による「清流と山菜の里ほその村」を組織し、地元の自然を活かした様々な活動を行っています。その一つに、細野地区で育てた米や季節の食材をセットにして、年4回希望者に発送する「ふるさと定期便」があり、5月11日に発送作業を行いました。オール細野産の食材を味わってみたい方はぜひ「清流と山菜の里ほその村」☎(28)3736までお問い合わせください。